



2026年 1月30日
第139号

JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一
編集 情宣 担当
ホームページ



<http://www.jreu-yokohama1.jp/>

横地申
第13号

「2026年3月ダイヤ改正」等に関する 申し入れ（1月29日）団体交渉を行う！①

1. 南武線の慢性的な遅延について、今ダイヤ改正により、どの程度改善が図られる見通しなのか明らかにすること。

(回答) 改修した車両システムの効果に加え、朝通勤時間帯における上り列車の運転時分及び停車時分の見直し、川崎駅、立川駅での折返し時分拡大を行い、遅延を吸収できるようにダイヤの柔軟性を高めていく。また、武蔵中原駅の2線を交互に使用することで先行列車が停車中に後続列車が別の番線に到着できるようにすることで、遅延拡大の防止を見込んでいる。

組合	会社
どのような問題意識で改善を図ろうとしたのか。	ワンマンが起因ではないが、 お客さまの声を受けて改善を図った。
会社として、ダイヤ改正以降の南武線の慢性的な遅延について、曜日別、時間帯別の原因究明は行ったのか。	朝ラッシュ時間帯における遅延をいかに吸収していくか、そして遅延を波及させないかという課題が見えた。
そもそものダイヤ設定に余力が無かったということではないか。	朝の遅延がデertimeに食い込み、運転整理も発生したが、遅延については2024年改正と同じくらいまでに戻っている。
改善により、遅れの波及性は解消されるのか。	平日上りc速の標定時分を見直している。また、武蔵中原駅の両面発着による閉そくの緩和と、30秒2ポツを設定して流動的となるようにした。
武蔵中原駅の2面発着について、ホームでの滞留が起きないような対策は講じるのか。	駅と調整をしており、足元シールや立ち番などを検討している。

2. 乗務行路の作成にあたっては、一般線区であっても稠密線区に準じた作成を行うこと。

(回答) 乗務割交番作成規程等に則り取り扱うこととなる。

睡眠時間、食事時間の確保に関して、少しでも確保できるようにすること。	認識は組合側と同じである。 可能な限り配慮し、さまざまな兼ね合いを見ながら作成していく。
------------------------------------	---

3. 各職場に休日カット行路が発生することから、休日の「行路数及び乗務キロの比較(箇所別)」を示すこと。

(回答) 列車ダイヤの設定や効率的な運用を勘案し、行路を作成している。なお、平日ダイヤに基づき箇所別の行路数及び乗務キロの現改比較を示したものである。

クロスから読み取るのではなく、会社として正確に示すこと。	平日ベースで示すのが大前提であり、意見として承る。なお、 口頭で示すことは可能である。
休日カット行路はなぜ発生するのか。	平日と休日では列車本数の差があるためである。

4. 熱海駅における本線運転士による分割併合作業について、昨年度のダイヤ改正以降での課題を示し、今ダイヤ改正でどのように反映させるのか示すこと。

(回答) 乗務員による分割併合作業については、2025年3月ダイヤ改正以降順調に推移している認識であり、2026年3月ダイヤ改正において、対象列車を拡大する考えである。

分併不具合発生時の対応や、応急処置で課題はなかったのか。	作業自体に課題は無い。 不具合は2件発生したが、熱海事務所からも応援が駆けつけて対応している。
新任者に対する教育方法などで課題は出ていないのか。	現車も確保しながら、しっかり教育を行っている。
分併作業が3分しかなく、時間に余裕が欲しい。	優等列車としての使命があり、時分を伸ばすのは難しい。
大幅遅延時の対応などで、後作業へ支障は出ていないか。	現状は対応できている。
修善寺/下田編成が単独運転となる場合にも線区として対応できるよう首都圏本部を含めて改善を図ること。	意見として承る。
普通列車における分併は行う考えはあるのか。	設定は無いが、必要となった場合は教育を行う。
今後の展望について示すこと。	現時点では熱海事務所の対応となる。
駅が機器扱いをしたり、運転士が誘導を行うことはあるか。	現時点ではない。